

西成区教育行政連絡会（公開の部） 議事要旨

1 日 時

令和6年2月28日（水） 午前10時00分～午前10時30分

2 場 所

西成区役所 5階5-1・2会議室

3 出席者

(1) 区役所

西成区長兼区シティマネージャー及び教育委員会事務局区担当教育次長、西成区役所保健福祉担当部長、西成区役所窓口サービス課長、西成区役所市民協働課長、西成区役所子育て支援担当課長兼教育委員会事務局西成区教育担当課長

(2) 中学校

天下茶屋中学校長、今宮中学校長、成南中学校長、鶴見橋中学校長、玉出中学校長、梅南中学校長

(3) 小学校

天下茶屋小学校長、岸里小学校長、玉出小学校長、千本小学校長、橘小学校長、まつば小学校、長橋小学校長、北津守小学校長、南津守小学校長、新今宮小学校長（今宮中学校長兼務）

4 議事要旨

○ 西成区教育行政連絡会プロジェクトチーム会議について

【説明要旨】

- ・資料2に基づき説明。

《プロジェクトチーム会議設置の経過について》

・令和5年度から第三期西成特区構想が開始されている。若年層を中心に既に増加している転入者をさらに増加させ、子育て世帯の転出を抑制させることで、人口減少に歯止めをかけることを目指している。「教育するなら西成区」をめざし、西成区のエducational環境に対するイメージアップを図るために、「大阪市平均の学力」、「不登校の実質ゼロ」の実現に向けて小学校入学から中学校卒業までの全体を見据え、子育て世帯の幅広いニーズに応える施策を実施する。

《プロジェクトチーム会議での議論内容について》

- ・プロジェクトチーム会議については、令和4年度は11回、令和5年度は9回開催し、関係の校長先生方や、教育委員会事務局指導部初等・中学校教育担当第3教育ブロックグループ総括指導主事、指導主事にもご出席いただいた。
- ・プロジェクトチーム会議の議論によって、小学校入学から中学校卒業までの様々な学力層の児童生徒をターゲットとして事業を実施することとなった。

【主な意見】

《プロジェクトチーム会議にご参画いただいた先生方の感想》

・教諭として西成区内の小学校で6年生の担任を持っていた際に、学校に足が向かない児童の支援を行っていた。担任、教務主任、養護教諭の3名で空き時間に家庭訪問を行うなどの支援を行っていたが、児童のためになっているかどうか考えながら支援を行っていた。当時、こども生活・まなびサポート事業のような施策があれば、その児童も救われたのではないかと思う。

プロジェクトチーム会議には、西成区に赴任してすぐの参加であったため参加しても良いのかという思いがあったが、西成区の目指すところもよく分かり、来年度以降の施策の実施に少しでも力になれたのであれば参加してよかったと考えている。

・今年度プロジェクトチーム会議に初めて参加した。学校の教職員だけでは対応しきれていないことに関して、区役所から丁寧にヒアリングしていただき、次年度に向けて対応を一緒に考えていこうと言ってくれたため、心強く思いながら参加していた。

会議の場で意見を言えていたかどうかを振り返ると、力不足であった様にも感じるが、他校の校長先生方からの意見も聞くことができ、勉強になった。

また、施策について学校でも児童に届くような体制づくりを行っていかなければならないという責任も感じている。行政の力も借りながら子どもたちのために施策を考えていける場であった。

・西成区に赴任してすぐにプロジェクトチーム会議に参加することとなり、西成区の実情について知らない状況で参加することとなった。しかし、参加することで、不登校支援や学力向上など、西成区で様々な事業をしていることも分かった。それに関わって、現場の声を真摯に聴いていただき反映できるように検討いただきありがたいと感じている。また、他の小学校中学校の校長先生のお話から各学校の状況知ることができ、勉強になった。本校にも取り入れられることがあれば取り入れていきたい。

次年度に向けて、新規で行う事業や、拡充する事業があるため、子どもたちに効果が伝わるように取組を進めていくとともに、学校の教職員にも伝えて学校全体で盛り上げていきたい。子どもたちのために施策が充実できるように取組を進めていきたい。

・西成区が独自に子どもたちのために様々な施策をしてくださっていることに感謝している。学校は、行政が予算の確保や業者の選定、他局との調整に苦労していることをあまり分かっていないので、会議に参加することでその一部が分かり、大変勉強になった。

今後も学校現場に寄り添った西成区役所であってほしいと考えている。

・松井前市長の「教育するなら西成区」という言葉を踏まえた「大阪市平均の学力」「不登校の実質ゼロ」という明確な目標があったため、発言しやすい会議となり、忌憚なく現状と課題を報告することができた。丁寧に聞き取りの上で制度設計していただき、充実したありがたい会議であった。財政当局との折衝、民間事業者の入札・選定などにご苦労いただいて来年いよいよスタートするため、次は学校側が答えを出していく番であると考えている。

○ 令和6年度 西成区教育関連事業の実施について

【説明要旨】

- ・資料3に基づき説明。

・令和6年度予算額は、これから大阪市会での議論を経て予算が決定するため、予算が決定していないことを留意していただきたい。

《西成区こども生活・まなびサポート事業》

- ・令和6年度に拡充する事業となっている。
- ・「不登校の実質ゼロ」を目標としており、「不登校の実質ゼロ」の定義については、プロジェクトチーム会議で議論を行った。
- ・取組内容について、「登校支援」は、電話・家庭訪問などにより児童生徒の登校を促す。

「訪問支援」は、学校にほとんど通うことができず、家から出られない児童生徒等に対し、児童生徒の自宅を訪問し、学習支援、相談対応など、不登校による不利益が生じないような支援を行う。

「居場所支援」は、学校に通うことが出来るが、教室に入ることが難しい児童生徒が登校できる校内適応指導教室（スペシャルサポートルーム）の環境整備を行い、学びの場に定着できるように見守りを行う。

「学習姿勢向上に向けた支援」小1プロブレムなどが原因で、学習姿勢が身に着いていない小学校低学年の児童に対し、学習に向かえるように支援する。

《外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業》

- ・外国から来た児童生徒の中で、日本語指導が必要な子どもの教育センター校通級などにより、日常会話はできるようになっているが学習言語が定着していない児童生徒を対象として、母国の学校では学習していない内容や、生活言語を習得するまでに授業を受けたため十分に理解できていない内容などの補充学習を行い、教科学習を通して日本語指導を行う。補習の側面が大きい事業となっている。学習言語の習得には、5～7年かかることから、小学校4年生～中学校3年生を対象とし、実施する。
- ・会場は、西成区の北部の鶴見橋中学校と、南部の岸里小学校としている。

《学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業》

- ・中学校の学力診断検査や高校入試の本番を想定した模擬テストを通じて、生徒の苦手分野を把握し、生徒にフィードバックすることで自身の課題を認識させるとともに、苦手分野の反復演習をすることで、個人の学力向上を図り、ひいては学校全体の学力の底上げを図る。
- ・中学生を対象とし、5教科実施する。
- ・夏休み、冬休みの前に復習問題に取り組めるような日程となっている。

《発展型学習支援事業》

- ・家庭の経済状況の如何に関わらず本人が志望する水準の高等学校への進学ができるように、成績中上位層を中心とした学習意欲のある児童生徒に対して、発展的な内容の学習機会を提供することによって更なる学力向上を図る。
- ・小学校5・6年生については、基礎学力向上支援事業に参加している児童がつながりで受講する児童が多いと想定しており定員を多くしている。中学生については、今後定員を増やしていきたいと考えている。

- ・小学校の開催場所については、中学校区に1箇所程度開催できるように検討し、6箇所としている。

《西成区基礎学力アップ事業（西成まなび塾）》

- ・区内の小学校5・6年生及び中学生に対し、小中学校校舎等の公共施設を活用した塾等事業者による課外授業（補習）を実施する。
- ・令和6年度下半期からの習い事・塾代助成カードの所得制限撤廃に伴い、参加しやすくなることも考えられるため、各学校で対象者への声掛けをお願いしたい。

《基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）》

- ・区内小学3・4年生に対し、夏休みや冬休み、平日の放課後を利用し、小学校で塾等の事業者による課外授業を実施する。
- ・令和5年度から、前期後期制とし、後期に習熟度別授業を行っている。
- ・令和6年度に、ジャガピースクール体験会を3年生の全児童対象に行った小学校で参加率が高かったという実績があったため、令和6年度は全校で小学校3年生全員を対象としたジャガピースクール体験会の実施をお願いしたい。

《プレーパーク事業》

- ・魅力ある子育て環境を創出することで西成区に対する偏見やマイナスイメージを払拭し、西成特区構想でめざす子育て世代の誘引・定着への動機付けの一端を担う場となるべく子どもの生きる力を育む居場所であるプレーパークを実施する。
- ・令和6年度から2つのプレーパークに分けて事業実施を行う。
- ・プレイス型については、もと津守小学校のグラウンドに不良個所があったことから、もと松之宮小学校やもと今宮小学校、区内公園などで開催する。
- ・体験型については、体験活動により子どもの好奇心を刺激し物事への興味や関心を広げ、ひいては学習意欲も引き出すことを考えており、令和6年度は、区内小学校や西成区役所での開催も考えている。学校開催にあたっては、実施内容について事前に協議をさせていただく予定としている。

《西成区こどもの読書活動推進支援事業》

- ・読書活動を行うきっかけづくりとして、年間の読了冊数に応じて賞状を贈呈する。読書の質も大事であるという意見があったことから、ふりかえりシートを導入し、読書の質も高めていく。
- ・年間目標読了冊数を設定しているが、中学生は、本1冊あたりの量も増えると考えられることから、25冊に目標を変更している。

《キャリア教育推進支援事業》

- ・大阪市と協定を締結しているプロスポーツチームからゲストティーチャーを招き、交流や講義を通して、ゲストティーチャーがどのような進路を選択し、どのような方法でその職業に就いたのかを学ぶなど、児童生徒が具体的な進路や将来の職業について考える機会を提供する。
- ・2年間をかけて全中学校で実施している。
- ・3月に希望調査を実施予定のため、ご協力をお願いしたい。

《大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業》

- ・区内小中学校の児童・生徒にプロの演奏を鑑賞してもらい、子どもたちの心に深く芸術文化に触れた記憶を残し、地域への愛着や誇りをはぐくみ、魅力ある地域へと変革させる人材育成につながるるとともに、将来の目標を見出していける人材育成をはかることを目的として実施している。

《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

- ・帰国・来日等の児童生徒で、学校生活において日本の生活習慣等に支援が必要な児童生徒に対し寄り添い支援を行うサポーターを配置している。サポーターは有償ボランティアとしている。
- ・令和6年度は、校長経営戦略支援予算区担当教育次長執行枠をスクラップアンドビルドすることで、予算額を大幅に増額している。

《小・中学校サポーター登録事業》

- ・各学校で活動していただけるサポーターの情報を西成区役所で募集・登録し、各学校へ紹介する。大学等にも働きかけて各学校に紹介していきたい。
- ・帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポーターや、こども生活・まなびサポート事業の区低学年サポーターとして活動していただける方を登録していきたい。

《西成しごと博物館》

- ・西成区や近隣の子どもたちに、地元の企業の仕事内容を理解してもらうことで、働くことの大切さや面白さを感じてもらい、地元に誇りと愛着を持っていただくことを目的として区内の企業に出展していただき、仕事見学・体験を行う。
- ・毎年十数社の企業による職業体験を行っており、好評な事業となっている。

【主な意見・質問】

《発展型学習支援事業・基礎学力アップ事業（西成まなび塾）》

- ・発展型学習支援事業、基礎学力アップ事業のどちらも小学校5・6年生対象であるが、基礎学力アップ事業は有料、発展型学習支援事業は無料である。どのように募集をするのかを聞かせていただきたい。特に、成績中上位層を中心とした学習意欲のある児童生徒に対してとなっているが、子どもたちにチラシを渡すだけでは、対象者が伝わらないと思われるので、どのように周知するのかを知りたい。学校が、どちらかを勧めることは難しい。一度試して辞めることはできるのかも聞かせいただきたい。

対象者について児童生徒に説明をしたとしても、児童生徒が理解することは難しいこともあるので、保護者への説明も必要である。

塾代助成カードを他の習い事に使おうと思っている保護者が、無料である発展型学習支援事業に行かせたいと思うことも考えられる。

《基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）》

- ・定員の記載がないが、各学校の実態に合わせて上限を決める必要があるのか教えていただきたい。

・打ち合わせの際に、契約内容が分からないため、打ち合わせの前に契約内容を示していただきたい。

《こども生活・まなびサポート事業（登校支援）》

・今年配置されている区登校支援・見守り支援員は、来年度も継続して配置していただくことができるのか。

《こども生活・まなびサポート事業（学習姿勢向上）》

・区学習姿勢向上支援員の人材確保はできているのか。

【主な意見・質問に対する回答】

《発展型学習支援事業・基礎学力アップ事業（西成まなび塾）》

・発展型学習支援事業の受講者について、他都市等では、入塾テストや、対象者を校長推薦とすることで受講者を選んでいるような事例があるが、西成区にはそぐわないと考えている。

二つの事業を1枚のチラシで募集するなどの工夫をしたいと考えている。

新規事業でもあるので、課題が見えてきたらまたご相談させていただきたい。

初回の授業のオリエンテーションで、事業の内容については説明してから授業を開始する予定としている。

《基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）》

・各校での定員について、今まで定員を超えたことがないため、調整いただくことはないと考えている。定員は、前期が264名、後期が270名となっている。

・打ち合わせの前に、仕様書の内容を共有させていただく。

《こども生活・まなびサポート事業（登校支援）》

・人材確保について、配置の決定は、受託事業者が行うが、学校が継続を望む場合は継続して配置される場合が多い。ただし、労働者派遣法において、同一の派遣先の事業所において、3年を超えて派遣就業することはできないと定められているため、3年目に該当するサポーターは異動となる。

・補足として、他の会議において、「令和6年度から区登校支援・見守り支援員が登校支援だけでなく、訪問支援を行うこととなるが、支援員本人は、そのことを理解しているのか。訪問支援の業務をいきなり任せても良いのか。」というご質問があった。もちろん、仕様書には記載の上入札を行っているので、事業者から支援員には伝わっている。ただし、人材によっては、人間関係の構築から始める必要があり、すぐに任せられないことが考えられる。そういった場合は、こどもサポートネット事業をご活用いただき、スクリーニングⅡ会議の対象児童とすることや、SSWや推進員が同行のうえ児童生徒本人と顔合わせをするなどの対応を行っていききたい。

《こども生活・まなびサポート事業（学習姿勢向上）》

- ・入札は行われ、事業者は決定している。労働者派遣契約なので、契約内容は遵守していただいて、有資格者を確保していただくこととなっている。

西成区教育行政連絡会（非公開の部）議事要旨

1 日 時

令和6年2月28日（水） 午前10時30分～午前11時40分

2 場 所

西成区役所 5階5-1・2会議室

3 出席者

(1) 区役所

西成区長兼区シティマネージャー及び教育委員会事務局区担当教育次長、西成区役所保健福祉担当部長、西成区役所窓口サービス課長、西成区役所市民協働課長、西成区役所子育て支援担当課長兼教育委員会事務局西成区教育担当課長

(2) 中学校

天下茶屋中学校長、今宮中学校長、成南中学校、鶴見橋中学校長、玉出中学校長、梅南中学校長

(3) 小学校

天下茶屋小学校長、岸里小学校長、玉出小学校長、千本小学校長、橘小学校長、まつば小学校、長橋小学校長、北津守小学校長、南津守小学校長、新今宮小学校長（今宮中学校長兼務）

4 議事要旨

○ 令和6年度入学 学校選択制の状況について

【説明要旨】

- ・令和6年度入学児童生徒の学校選択制の希望調査結果について説明を行った。

【主な意見・質問】

- ・学校選択制の課題や、指定校変更の対応について意見があった。

○ その他

【説明要旨】

・区内で行われた取組みについて、前回の教育行政連絡会で長橋小学校の宮辺校長先生からご紹介いただいた長橋小学校の児童と今宮工科高校の生徒が製作した掲示板とごみ箱のお披露目式の様子が朝日新聞に掲載された。また、関連して、今宮工科高校の生徒が作成した防犯トートバックの贈呈式が鶴見橋中学校で行われた。

【区長コメント】

・前向きな取組みを精一杯サポートすることが区役所としての役目であると考えている。子どもたちがチャレンジできる機会をつくっていきたい。